

Title	ソフトウェア・ベンチャー企業の価値評価 - 株価と非金銭的ファクターとの関連性 -
Sub Title	
Author	森下均(Morishita, Hitoshi) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1553号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1553

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	太田康信 研究会	学籍番号	89828902	氏名	森下 均
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;">ソフトウェア・ベンチャー企業の価値評価 —株価と非金銭的ファクターとの関連性—</p> <p>(内容の要旨)</p> <p>パッケージ・ソフトウェア業界は、アメリカ型市場資本主義という強者の論理にさらされている。参入障壁が低いため、独創性のある社員からなる幾多のベンチャー企業が参入するが、5年以内にその9割が倒産や買収の形で消滅している。永続企業として成長し続けることは、稀有であるとさえいえる。</p> <p>本稿では、ソフトウェア・ベンチャーの企業価値（株価時価総額）成長要因として非金銭的ファクター、特に目に見えない資産（Intangible Asset）に着目した。そして個々の Intangible Asset がどのように相互関連し、時間軸の中でそれらの価値がどのように変化し、企業価値にどのような影響を及ぼしていくのかの解明を、検証目的とした。尚、事例分析に基づき、Intangible Asset 相互の2項関係を考察し、その上で動態モデル（Stella ソフトウェア）を構築し、モデルを作動した結果得られるグラフを観察するという手順をとった。</p> <p>結論としては、株式上場前の企業価値は、顧客ベース及びブランドやカルチャーなど、成長を加速させる非金銭的ファクターで決定される。反対に、上場後の企業価値は、（非金銭的ファクターの確立を前提とした）金銭的ファクターが主要因となる。</p> <p>ブランドやカルチャーの価値は、外部と内部とを無境界状態にするような状況設定、即ち、1）外部に対するシグナリング効果、2）外部資源の内部化（自陣営の強化）、3）内部における集団合理性と個人合理性とのコンフリクトの回避、の3要素で決まる。尚、これらは「経営者の器」、即ちアナウンス効果、人脈の量と質、交渉・契約・インセンティブの構築力、リーダーシップ能力などの力量に規定される。</p> <p>さらに付け加えるならば、内部のコンフリクトの回避は、社員やパートナーを形だけの協調関係に導くという意味ではない。「競争の中での協調」というように、切磋琢磨する良好なライバル関係に導くということである。</p> <p>無境界に保つことで、良質な情報、資金、人材を大量に呼び込み、内部価値が高められる。と同時に、事業売却やライセンスの売買などの外部との取引が柔軟かつ頻繁に行われる。その結果企業価値が高まり、また新たな情報や資金や人材を呼びこむというように、好循環サイクルが作り出される。このように、ハイリスク・ハイリターン型の困難なソフトウェアビジネスの事業運営は、非金銭的ファクターの価値を高める努力を通じて、はじめて可能になるのである。</p>					